

平成23年度大学コンソーシアムとちぎ 学生活動支援事業 報告書

機関名	国際医療福祉大学
団体等名	ミニ生命のメッセージ展実行委員会
学生代表者氏名 (所属・学年)	大木 亜莉奈 (国際医療福祉大学 医療福祉・マネジメント学科 1年)
責任教職員氏名	医療福祉・マネジメント学科 福井 康江 TEL&FAX ; (研究室直通)

1. 事業名	第二回 ミニ生命のメッセージ展 IN 風花祭
2. 実施時期	2011年 10月15日 ~ 10月16日
3. 実施場所	国際医療福祉大学 D302教室及びF301教室
4. 事業の内容等	別紙) 開催案内添付
5. 事業の成果と今後の課題	東日本大震災の起きた今年、改めて命や生きることを問うことを通じて、大学生と一般市民との相互交流を図ることができた。(来場者2日間延べ50人) その後、1年生の3つのゼミから要望があり、「0(ゼロ)からの風」をゼミ単位で視聴することができた。 今後、福祉・医療・教育・芸術のコラボレーションの要素を含み、県内の大学生同士が合同(共催)で、生命のメッセージ展を是非開催してみたい。

- (注) 1. 記述が枠内に収まらない場合は、枠を拡大してください。
 2. 事業内容がわかるような資料や写真などがあれば添付してください。
 報告書(添付書類を含む)はA4判5枚以内にまとめてください。
 3. この報告書は、各関係機関等に公表するとともに、大学コンソーシアムとちぎのホームページへの掲載を考えております。また、次年度以降の学生活動支援事業に役立てていきたいと思っております。



いのち ミニミニ・生命のメッセージ展 in 風花

～ 今、考えよう、生命とは、生きるとは ～

「生命のメッセージ展」とは、犯罪・事故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどの結果、理不尽に生命を奪われた犠牲者が主役のアート展です。

犠牲者一人一人のパネル、そして遺された家族の言葉などのメッセージを通して、犯罪被害者・遺族の人権を訴えるとともに、「生命の重み」を伝えていきます。

☆日 時 / 2011年10月15日(土)、16日(日) 10:00～16:00

☆展示会場 / D棟 302 教室

☆内 容 (*今回はミニミニ展の為、人型パネル等の展示はありません)

1. メッセンジャーの写真パネル (主役の皆さんです。)

2. 赤い毛糸玉

会場では、来場者一人一人に、「命への愛おしさ」を赤い毛糸に託してつなげていただいています。赤い毛糸を結んでいただいた毛糸玉は、「生命のメッセージ展」のシンボルとなっています。

3. 生命のメッセージ展シンボル「赤いハート」

ハートは尊い命・優しい心の象徴です。会場で販売するハートグッズは参加家族とボランティアの方が一つ一つ心を込めて作った手作り作品です。収益は運営資金になります。

4. 「かざぐるま」作り体験

私たちと一緒に「かざぐるま」を作ってみませんか? そして、やさしい風を感じてみてください。忘れかけていた、なつかしい時間を思い出すかもしれません。

☆「0(ゼロ)からの風」(映画会)※会場F301教室

「生命(いのち)のメッセージ展」代表を務める鈴木共子さんがモデルとなった映画です

16日(日) 第1回 AM10:30～12:30

第2回 PM 1:30～3:30

ミニミニ生命のメッセージ展会場では、被災地支援に向けて2つの試みを行っています。多くの皆様のご協力をお願いいたします。

I、あしなが育英会

遺児のための「東北レインボーハウス」建設にむけての募金活動を行っています！

あしなが育英会では、経済的な支援だけではなく、子どもたちのケアにも取り組んでいます。“心を癒す家”「東北レインボーハウス」(仮称)建設を決定しました。阪神・淡路大震災後、被災地に「神戸レインボーハウス」を建設し、16年来、子どもたちを支える活動をしています。神戸と同じように子どもたちのケア活動にも力を尽くします。

東北レインボーハウス・センター(「遺児ケアとファシリテーター養成」の発信基地)建設について

<建設の目的>

- ①東日本津波遺児の心のケアを日常的長期的に行うため。
- ②心のケアを実際に進める大人をファシリテーターと呼ぶが、そのように子どもに寄り添え、心のケアを必要とする子どもの心を大切に作るファシリテーターを東北で大量に増やす。具体的にはファシリテーター養成講座、講演会等を重ねる。
- ③仙台のレインボーハウスに安価な大学生の学生寮を併設する。津波遺児の仙台での大学進学拠点になり、若い津波遺児にとっては、レインボーハウスに行けば、優しいお兄さんお姉さんがいる。目標になるような人との出会い。

※ファシリテーターとは＝遺児の心の癒しをお手伝いするボランティアのことを「ファシリテーター」と呼びます。その役割は、遺児が心の内にある思いを言葉にすること、言葉ではなくても身体で表現することを、「やりやすくする」ように手助けすることです。

II、遠野まごころネットへ送る「お茶菓子」大募集しています！

遠野市被災地支援ネットワーク「遠野まごころネット(遠野被災地支援ボランティア)」は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災で被災した岩手県沿岸部の被災者の方々を支援するべく、遠野市民を中心として結成されたボランティア集団です。遠野まごころネットでは、大船渡市や大槌町の仮設住宅の集会所やテントなどで、コミュニティの活性化を目指して「カフェ隊」が「お茶っこの会」を開いています。日本茶やコーヒー、茶菓子を楽しみながら、おしゃべりしてほっとするひと時を提供し、仮設住宅での引きこもりを予防しています。お茶うけの菓子が不足してきたので、賞味期限が長めの茶菓子を送っていただけると助かります。送り主の顔が見えるような地域の銘菓も喜ばれます。

会場ではお菓子の受付を行っています。集まったお菓子は責任をもって宅配をいたします。

